

---

## 岐阜県立関高等学校

学 校 長 平井 学

学校住所 関市桜ヶ丘2-1-1

電話 (0575) 22-5688

---

1 会議の名称 岐阜県立関高等学校 学校評議員会 (第1回)

2 会議の構成 委 員

神谷 泰久	関高等学校同窓会副会長
中村 美恵子	関高等学校PTA会長
平田 久美子	平田建設株式会社取締役
福田 克則	福田刃物工業株式会社代表取締役
森 小百合	関市高齢福祉課長

(委員名は五十音順)

学 校 側	平井 学 校 長
	林 靖 教 頭
	松下 敦子 事務部長
	木澤 朗 教諭
	内田 匡俊 教諭
	古川 真哉 教諭
	林 直樹 教諭
	國枝 英俊 教諭

3 会議の目的 学校運営や教育活動等の現状について、地域社会や同窓会、保護者等に情報発信するとともに、意見や要望を幅広く聞き、それを反映できる開かれた活力ある学校づくりを推進する。

4 会議の開催 令和元年9月2日(月) 12:30~14:30 岐阜県立関高等学校 校長室  
委員5人と学校側8人が出席

5 会議の概要 初めに、教頭より学校評議員の運営についてと第1回評議員会の次第説明があり、続いて校長より本校学校経営計画(マニフェスト)等について、説明が行われた。今年度の教育指導の重点目標は、「勉強する関高生」「マナーのよい関高生」「汗を流す関高生」「グローバルな関高生」であり、この4本の柱を踏まえて、以下のテーマについて学校評議員の意見を伺うとともに、当日開催中の特別活動(文化祭)とPTAバザー等の実施状況を委員の方に見学していただいた。

(1) テーマ 令和元年度入学生からの単位制移行と校内の教育環境について

単位制について教務主任から、本年度より単位制導入した重要なポイントは、「生徒が自ら能動的・主体的に進路目標や将来を考えたうえで、教科・科目を選択することをより明確にするためである」ことを説明した。また、各中学校に対し、生徒自身の多様化や求める進路の多様化に対応する「関高型単位制」について丁寧に説明している点も伝えた。

授業環境の大きな変化としては、教室の黒板のホワイトボード化並びにプロジェクターの設置(全県下の高校で実施)が終了し、今後、職員研修等を実施した後、運用することを説明した。

意見 1 2年、3年次に選択肢（進路に合わせた選択科目）が設けられていることは、生徒の主体的な進路決定に対し魅力的である。

意見 2 単位制にすることで、生徒が自分たちの進路選択に向けた選択肢に幅があると感じることは良いことであり大切である。一方、世の中にある多くの進路情報の中から、各生徒、保護者に正しい情報が、入学当時から正しく伝わり・検索・判断できるようにすることが非常に大切だと考える。

意見 3 以前から授業に対し、外部講師（地域の方や大学関係者等）の導入がなされ、指導に対し十分なバックアップできている。LGBTについても地域とよく連携し発表等が行われ、企画運営力の高さは大学生にも優ると考える。今後、さらに地域の協力が必要であれば依頼していただければ企業も含め多くの面で協力できる。また、様々な学校教育活動が、地域や地場産業の活性化にもつながるものであるとも考える。

意見 4 最新機器（プロジェクター等）の導入によって先生方のスキルアップ等が必要となるが、この機会を、若い先生の得意分野（SNSやソフト等の扱いの優位性）とベテランの先生の得意分野（授業指導の経験や対応力）の融合が図れる良いチャンスと捉え、学校全体で教員のコミュニケーション力の向上と資質向上につなげることが大切である。

本校は、他の設備（エアコン）や備品については、県下では非常に早く導入された面が多い学校である。老朽化も考えられるので創立100周年とも合わせ、更なる整備が必要である。

## （2）テーマ 関高生のマナーと生徒指導について

「時間」「約束」を守り、「挨拶」「感謝」行動の具現化を、教職員の声かけと生徒会活動の一体化により実行している現状を、生徒指導部長より説明するとともに、自転車安全講習会とMSリーダーズ活動については新聞掲載記事内容も含め紹介し、交通事故件数（現在までの同時期発生件数推移）において昨年度（18件）であったものが本年度（9件）へ減少したことも説明した。

また、いじめ（重大事案ではない情報モラル違反を含む案件）事案が2件発生し、いじめ防止等対策検討会議を開催し、速やかな対応を行ったことと長期欠席者の対応状況について説明するとともに、校則や制服の在り方についても見直しを進め、制服についてはLGBT対応と冬季の防寒対応として女子パンツ（ズボン）の使用を認める変更を行ったことを説明した。

意見 1 自転車使用については、自転車安全講習会を昨年と同様に開催してもらえありがたい、今後も生徒の命の為、継続実施が必要である。また、事故発生時の報告手順についての注意喚起を繰り返しお願いする。しかし、大人が自家用車を運転する場合と同じように考え、自家用車に車検が義務付けられていることから自転車使用は使用する生徒自身あるいは保護者が責任を持ち車両点検を行うべきものだと考える。但し、地域の自転車店が少なくなり自転車の点検や修理もままならない状況であることも考慮すべきである。

また、高校直行便のバスの運用についても一考すべきであるし、LGBT等についても継続し対応すべきことである。

意見 2 基本的なマナーが企業でも大切にされている。挨拶は企業としては常識の範囲であるものだと考えている。社会に出た時にマナーとしての正しい挨拶や正しいコミュニケーションが人としてできることが大切である。文化祭や他の地域の発表時に、発表内容等について説明を求めると大変すばらしい受け答えを生徒の皆さんができる。一方、自ら積極的に挨拶や説明をする場面が、やや少ないように思われる。

意見 3 生徒指導の在り方として、学校だけに責任を負わせることなく保護者の協力を伴う指導の在り方についても考える必要がある。

また、SNSを含むスマートフォンの使用についても、情報モラル違反を起こさないことや加害者とならない使用方法を家庭とともに指導徹底するべきである。常に生徒の顔や生徒の学習活動が、地域に見えることが色々な面で大切である。

意見 4 高校の教育活動を通して、更に生徒をグレードアップしていくことと生徒に力を蓄えさせることを望む。それが地域の活性化につながると考える。高校生の時期に自らの進路について考えることで、地元に戻るといった選択肢も生まれると思われる。

### (3) テーマ グローバルな関高生と進路指導について

国際的な素養を身に付け、多様な価値観を認めあえる人材を育成するとともに、世界（グローバルな観点）と地域（地元）をよく知り、地元との関わり合いを大切にしている生徒を育成するため、名古屋大学レベル以上の難関大学20名以上、岐阜大学等中部の国公立大学100名以上、国公立大学合格率50%達成を進路目標として取り組むこととを進路指導部長より説明した。

具体的には、本年度8月4日（日）に、地域の小学生に対するオープンキャンパスを行い、地域の高校である関高等学校が、日々、何を行っているかを、地域の児童とその保護者（合計50名）に知ってもらえたことが、地域の人材育成の一助としてつながる手ごたえがあったことを伝えるとともに、今後もこの事業は継続していきたいと考えていることを報告した。

また、地域医療の観点からも医学部進学者の増加や、地域の教育の活性化のための教育学部進学者の増加を目指し、地域の人材育成の面で貢献できる学校を目指すことを説明した。

意見 1 グローバルな感覚を持つ人間というものは、企業経営の側面から考えると、まず、グローバルという考えに対し、地方とか都会とか国という場所にとられる感覚のものではないと考える。また、学力基準をどのレベルを目指すという感覚でもなく、人間が何処に住もうが、人として本当の豊かさを大切に考え、人と人とのコミュニケーションが適切にとれる適応力を持つことが本当の意味でのグローバルだと考える。グローバルな感性を持つ人間は、何処で暮らそうが、大丈夫だと考えると同時に、仕事や生活がきちんとできるものである。企業の求人や採用では、学歴など必要とは思わず、それよりも総合的な社会適応力を身に付けているかどうかの方が大切だと考える。その様な力を付ける高校教育を望む。

意見 2 生徒の可能性を伸ばす熱い教育を希望する。生徒指導の挨拶ができるできないという基準についても、挨拶については、TPOを考え適切に行えることがマナーの面でも大切であり、進路につながる教育だと考える。

意見 3 関高校出身者は、社会性やその他の能力に優れた面があり、多く人材が美濃地区で活躍していると感じる。今後もそのような人材を輩出し続けるように生徒を育ててほしい。

意見 4 高校の教育活動を通して、更に生徒をグレードアップしていくことと生徒に力を蓄えさせることを望む。それが地域の活性化につながると考える。高校生の時期に自らの進路について考えることで、地元に戻るといった選択肢も生まれると考える。

#### (4) テーマ 関高生と特別活動について

生徒会活動やボランティア活動、文化祭、体育祭、SGHに関わる様々な活動、部活動等に生徒が参加することによって様々な経験を積み、さらに、その経験を生かしながら学校行事を生徒が主体的に運営していることを特別活動部長より説明した。また、部活動への積極的な参加を促し、集団における個の役割を自覚させると同時に、個を生かす集団のあり方を学び、協調性と個性の尊重をする態度を養うよう教育していることも説明した。部活動の加入率は90パーセントほどであることも伝えた。

意見 1 LGBTについても地域とよく連携し発表等が行われ、企画運営力の高さは大学生にも優ると考える。地域に根ざした活動や地域連携は関市にとって非常に大切だと捉えている。

意見 2 特別活動や授業において、今後、さらに地域の協力が必要であれば依頼していただければ企業も含め多くの面で協力できる。また、様々な学校教育活動が、地域や地場産業の活性化にもつながるものであるとも考える。

意見 3 文化祭の様子を参観し、生徒、保護者、職員が一体となって活気にあふれる活動が見られた。クラス発表について、担当生徒に非常にわかりやすく説明をしてもらえ大変感心した。

意見 4 クラス発表について来校者に対し、積極的な入場呼び込みが無かったことについてやや控えめな印象を受けた。説明や受け答えの時の礼儀は評価できる。

意見 5 文化祭の発表はクオリティが高く、生徒のエネルギーを非常に感じる事ができた。企業とのタイアップによるフェアトレードの発表も良かった。

#### 6 会議のまとめ

今回の会議は、校長より本校学校経営計画（マニフェスト）について説明があり、続いて本校教育指導の重点目標の「勉強する関高生」「マナーのよい関高生」「汗を流す関高生」「グローバルな関高生」に沿って今年度の取り組みの概要等について、各担当者が現状を説明し、その内容に対する各評議員のご意見を伺う形で会議を進行した。会議の途中では、委員の皆様は文化祭の状況を実際に参観していただき、生徒や学校行事についても意見をいただいた。そして、今後の関高校の学校運営の方向性や関高校の在り方について、ご提言いただくとともに、第2回評議員会の開催を1月29日（水）と決定し会議を終えた。